

一 ツ 瀬 川
物 語

ひとつせがわものがたり



ひとつせがわものがたり

一ッ瀬川物語 目次 -もくじ-

1. ものがたり 物語のはじまり	01
2. さんかんぶ 山間部のはなし	02
3. へいやぶ 平野部のはなし	04
4. かこうぶ 河口部のはなし	07
5. ひとつせがわ 一ッ瀬川「アラカルト」	09
1. ひとつせがわ すがた 一ッ瀬川の姿	11
① ひとつせがわ とくちょう 一ッ瀬川の特徴	12
② ひとつせがわ へんせん 一ッ瀬川の変遷	15
③ ひとつせがわ しぜん 一ッ瀬川其自然	19
④ ひとつせがわ けいかん 一ッ瀬川の景観	24
2. ひとつせがわりゅういき く 一ッ瀬川流域の暮らし	29
① りゅういき なまえ ゆらい 流域の名前の由来	30
② りゅういき でんせつ 流域の伝説・いいつたえ	33
③ りゅういき さんぎょう 流域の産業	40
④ りゅういき こうつう 流域の交通	44
⑤ りゅういき けんぞうぶつ 流域の建造物	47
⑥ りゅういき どぼくこうぞうぶつ 流域の土木構造物	49
⑦ りゅういき ぶんかじん 流域の文化人	52
⑧ りゅういき みんげい げいのう 流域の民芸・芸能・まつり	53
⑨ りゅういき あそ 流域の遊び	56
3. みず たたか 水との戦い	59
① ひとつせがわ すいがい れきし 一ッ瀬川の水害の歴史	60
② ひとつせがわ ちすい へんせん 一ッ瀬川の治水の変遷	61
③ ひとつせがわ りすい へんせん 一ッ瀬川の利水の変遷	63

1. 物語のはじまり

ものがたりのはじまり

ひとつせがわ げんりゅう かわ はじ ところ くまもとけん けんざかい いちふさやま ひょうこう
一ツ瀬川の源流（川の始まる所）は、熊本県との県境である市房山（標高
1728.8m）周辺の山地にあります。急なV字谷の底を流れる上流・
ちゅうりゅうぶ いたやがわ おがわがわ しろみがわ おはながわ かわ ごうりゅう
中流部では、板谷川、小川川、銀鏡川、尾八重川などの川が合流します。
すぎやすきょう め さいとしすぎやす かこう かりゅうぶ みやぎきへいや ひろ
杉安峡を抜けた西都市杉安から河口までの下流部には宮崎平野が広がり、
さんざいかわ きづくめがわ ごうりゅう ひゅうがなだ なが こ
三財川、鬼付女川などが合流して、日向灘に流れ込みます。
ぜんちょう けんない かせん だい い りゅういきめんせき けんない かせん だい
全長91.3km（県内の河川で第4位）、流域面積852km²（県内の河川で第
い しせん ひとつせがわ ごうりゅう かわ ほん けんない かせん だい い ゆう
5位）、支川（一ツ瀬川に合流する川）59本（県内の河川で第3位）を有する、
けんない ゆうすう きぼ ぼこ かせん
県内でも有数の規模を誇る河川です。

これから始まる一ツ瀬川物語は、
ひとつせがわ じょうりゅう ちゅうりゅう さんかんぶ
一ツ瀬川上流・中流の山間部か
ら、すぎやすきょう かりゅう へいやぶ
杉安峡より下流の平野部を経て、
かこうぶ いた ひとつせがわ
河口部に至るまでの一ツ瀬川と、その
しせん りゅういき かん ものがたり
支川の流域に関する物語です。

それでは、はじまり、はじまり・・・

一ツ瀬川上流部

一ツ瀬川中流部

一ツ瀬川下流部



じょうくん

山間部は僕が
紹介するね！

平野部は私が
案内しまーす！



ちゅうちゃん

河口部は僕が
紹介します！



かっくん



2. 山間部のはなし

さんかんぶのはなし

さんかんぶ
山間部では、一ッ瀬川は椎葉村、西米良村、西都市の一部の山間地域を流れます。この地域は気候が厳しく、急な斜面の地形がほとんどを占めます。このため、ここに住む人たちは、比較的地形の緩やかな川沿いから山腹にかけて工夫して家を建てています。昔の家は藁葺き屋根が多く、昔ながらののどかな山村風景を作り出していました。



しかし、こののどかな風景とは反対に、生活は大変厳しいものでした。わずかな平地では農作物を十分に作ることができず、食料の確保が困難でした。そのため焼畑というやり方で山を切りひらき、ヒエやアワなどの雑穀、糸巻き大根などを生産していました。また、山では山菜、キノコ採り、イノシシの狩猟を行い、樹木の管理や伐採により林業や炭作りを行っていました。この地域の人々は、深い森と共に生活してきました。



さんかんぶ
山間部で採れた農産物や木炭などは一ッ瀬川下流部や球磨地方に運ばれました。この時に利用したのが、米良街道です。この米良街道は昔から交通の難所であり、特に下流部への道は険しかったことから、西米良村・椎葉村共に球磨地方との交流が盛んでした。このため、椎葉村、西米良村、旧東米良村(現西都市)は一ッ瀬川下流部とは違う独特の文化・風習・伝説がいまだに残る里として知られています。



環境

が厳しいながらも独特の文化・風習を持ち、素朴な山村であった山間部にも、近年になると開発の波が押し寄せてきました。険しい谷の地形が電源開発（ダムによる水力発電）の適地として高く評価されたのです。最初は小さな施設の建設が進みましたが、土木技術の進歩により、水力発電所のよ

うに大きな施設が造られるようになりました。中でも一ツ瀬発電所は、昭和38年に完成した西日本一の規模を持つアーチ式ダムの「一ツ瀬ダム」からの落水を利用し、約18万kwh（貯水式ダムでは全国第9位）の電気を作り出します。



みやざきけん

宮崎県

が誇るこの一ツ瀬ダムの建設では、西米良村の4地区（越野尾、横野、小川、村所）と旧東米良村の3地区（中尾、八重、銀鏡）において、合計361戸の住宅がダムの底に水没することになったので、住宅やその他の施設を全部別の場所に移す大規模な移転が行われています。

3. 平野部のはなし

へいやぶのはなし

山間部

の厳しい地形を勢いよく流れてきた一ツ瀬川は、最後の杉安峡を抜けると平野部にたどり着きます。平野部は気候が穏やかで地形の起伏が少ないことから、西都市の中心街をはじめ、大小多数の集落が広がります。また、農作物を育む広大な農地が流域に広がり、広々とした田園風景を作り出しています。



平野部

は、昔から人の往来も多く、日向街道や舟運などにより多くの文化・文明がもたらされました。江戸時代、この辺りを治めていた佐土原藩では、新たな文化や民芸が生み出されています。また、山間部では見られなかった古墳がたくさんあり、その代表である西都原古墳群には毎年多くの観光客が訪れます。それ以外にも、南方神社内の巨大なクスの木や、国分寺、長谷観音、伊東マンショゆかりの都於郡城跡などの名所が多く存在します。



ひとびと

人々

の生活に目を向けると、昔は橋が架けられていなかったため、主要な街道や人々の生活道路が川にぶつかる場所には「渡し」と呼ばれる川を渡る場所がありました。川を渡る方法には、舟、箆板、徒歩（川の中を歩く）など様々な方法がありました。その後、その渡しに木橋などをかけるようになりましたが、洪水のたびに流されてしまいました。そこで人々は、潜水橋という、洪水を受け流すことができる橋を架けるようになりました。現在でも潜水橋は利用されており、当時の知恵を知ることができます。



すぎ や す

杉安

から下流の平野部は沖積平野で形成されるため、ここからの一ツ瀬川は緩やかに流れていきます。しかし山間部とは異なり、洪水のたびに川の流れる位置が変わり、農作物が収穫できなくなるなどの被害を及ぼしました。洪水が人々の生活に与える影響が大きかったことから、昔から治水事業による河川改修を行ってきました。その歴史は古く、江戸時代の佐土原藩時代にもその記録が残っています。



さ ど わ ら は ん

佐土原藩

のしくみの中で、治水関係を担当する井出方という役職がありました。井出方は佐土原藩で最大規模の役所であったことから、いかに治水事業を重要視していたかがわかります。



へ い や ぶ

平野部

で収穫された農作物や、山間部から一ツ瀬川を流して運んできた木材などは、小型の舟やいかで河口の福島港へと運ばれ、和船（千石船、当時の大型船）で主に大阪方面へと出荷していました。佐土原藩は各舟から税金を取り、それを貴重な収入源としていました。よって、舟運を安全に行い、通過する舟を増加させることは、藩の収入の増加につながったのです。そのため、井出方という役人が行った、浅い箇所の浚渫、船着場の護岸などの治水事業はきわめて重要だったのです。

近代

になり、昭和7年（1932年）から公共事業としての河川改修事業が開始されました。宮崎県は、一ツ瀬川を県内で最初の河川改修事業として取り掛かりました。その後戦争による中断をはさみ、河川事業は続けられ、約半世紀を経た昭和58年の古川樋門の整備でほぼ完了しました。



支川

の三財川、三納川、山路川、八双田川、川原川でも、黒木旧三納村村長（砂防村长）などの働きかけもあり、捷水路や築堤護岸などが整備され、改修が完了しました。



治水事業

が積極的に行われた理由のもう一つに、一ツ瀬川流域の平野部で豊富に収穫される農作物の存在があります。この豊富な農作物の生産の礎となったものに利水事業があげられます。なかでも、児玉久右衛門による杉安井堰と金丸惣八による金丸堰、松本覚兵衛による伊倉用水路は、一ツ瀬川流域における利水事業の代表格といえます。これらの堰や用水路により、広大な田畑が新しく作られ、農作物が豊富に収穫されるようになりました。



4. 河口部のはなし

かこうぶのはなし

平野部

を緩やかに流れてきた一ツ瀬川は、最後に日向灘に流れ込みます。河口付近には左岸側に富田入江が広がり、釣り人やボート客などに利用され、にぎわっています。富田入江は宮崎県内では数少ない河口入江であり、藻場の分布により豊富な魚介類の生息場となっています。

河口干潟には、毎年冬になると多くの渡り鳥が渡来し、宮崎県で一番の観察ポイントとなっています。



げんざい

現在

河口部では富田入江しかありませんが、昭和20年代までは右岸側に二ツ建入江が存在していました。当時、この2つの入江の水域では豊富な魚介類を様々な漁法を用いて捕っていました。また、沿岸では塩田を作って塩作りが行われていましたが、治水事業による築堤により、塩田が消失し、入江も姿を変えていきました。

物語の終わりに・・・



ものがたりのおわりに

ひとつせがわ じょうりゅう あ さんかんぶ かりゅうぶ へいやぶ かこうぶ なが
一ツ瀬川の上 流 に当たる山間部から、下流部の平野部、河口部までを眺
めてきた一ツ瀬川物語も、一旦ここで終わりにします。

ひとつせがわりゅういき ひとびと せいかつ ぶんか さんかんぶ へいやぶ きこう ちけい
一ツ瀬川流域の人々の生活、文化などは、山間部と平野部では気候、地形、
周囲との交 流などが異なるため、かなりの違いが見られました。

ひとつせがわ りゅういき ひとびと さまざま かたち かか あ めぐ あた
また、一ツ瀬川は、流域の人々と様々な形で関わり合い、恵みを与え、
潤 してきました。同時に洪水や氾濫により多くの被害を流域の人々に与
え、困らせる存在でもありました。安全な生活を手に入れるため、河川環境
を改変する治水事業を実施してきましたが、河道を固定する護岸はほとんど
行 わず、堤外地を広く取って氾濫原に余裕を持たせるなど、河川環境の
改変を必要最小限に留めました。そのため、一ツ瀬川は大きな改変を行わ
れることなく、自然な状態を維持している貴重な河川といえます。

きちょう ひとつせがわ すがた かたち かか あ すこ か
この貴重な一ツ瀬川と、これからも姿、形、関わり合いを少しずつ変え
ながら、流域の人々の物語は続いています。

ひとつせがわ い
一ツ瀬川とともに生きていくかぎり・・・



一

ツ

瀬

川

ア

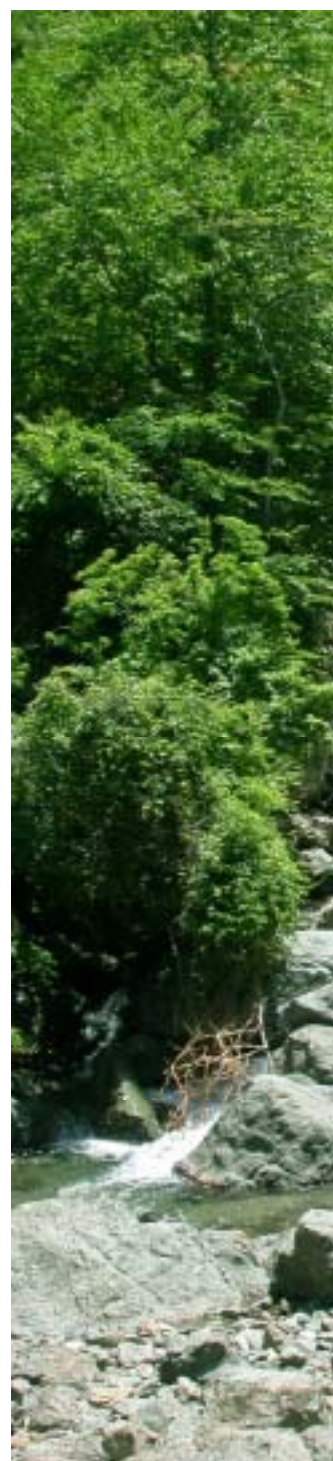
ラ

カ

ル

ト

ひとつせがわあらかると



一ツ瀬川の姿

ひとつせがわのすがた



① 一ツ瀬川の特徴 ひとつせがわのとくちょう

(1) 一ツ瀬川流域

ひとつせがわは、「九州の屋根」と呼ばれるほど高く険しい日向山地から始まります。山間部では、板谷川、尾八重川、小川川、銀鏡川など、平野部では三納川、三財川などが合流し、最後は日向灘に流れ込みます。



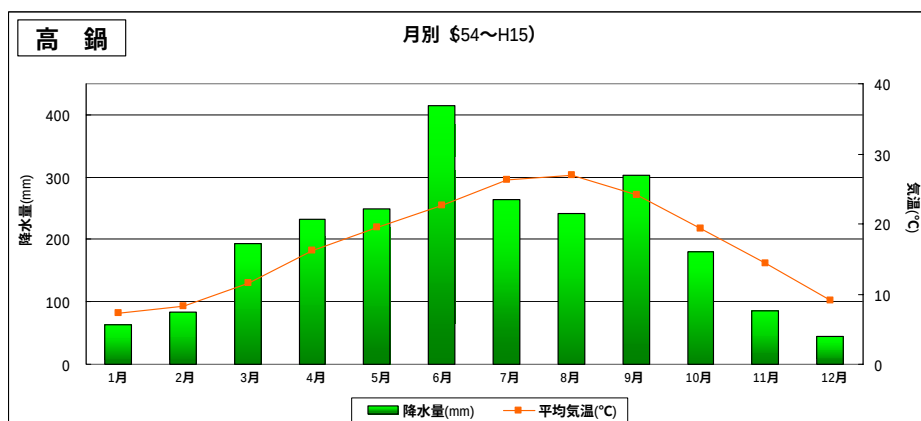
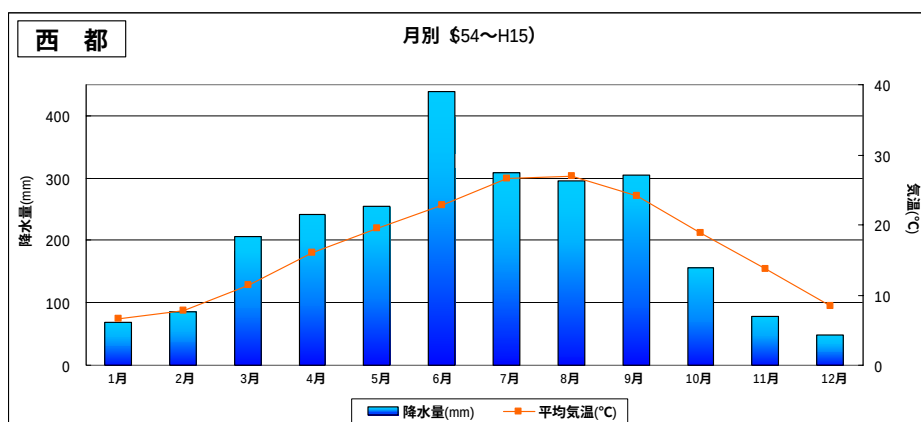
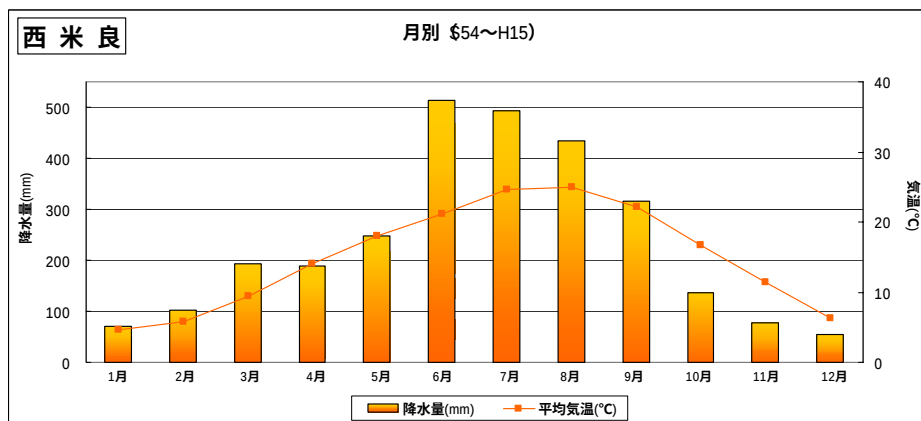
(2) 流域の地形 -約800万年前からの変遷-

ひとつせがわ かりゅう ひろ みやざき へいや べつめい ひゅうが かいがん へいや よ
一ツ瀬川の下流に広がる宮崎平野は、別名日向海岸平野と呼ばれます。
ひとつせがわ なが で きゅうしゅうさんち まんねんまえ まんねんまえ あいだ
一ツ瀬川が流れ出ている九州山地は、およそ800万年前から150万年前の間、
うみ めん ひとつせがわ なが うみ なみ やま けず かいいてい すな
海に面していました。このとき、一ツ瀬川の流れや海の波が山を削り、海底に砂
や泥を堆積しました。その後、きこう へんか じしん じばんへんどう
気候の変化や地震による地盤変動などによって、
かいいてい すな どり りゅうき りくち げんざい みやざき へいや つく
この海底の砂や泥が隆起して陸地となり、現在の宮崎平野を作っています。

みやざき へいや いちぶ さいとばる いったい さいとしふきん かいいてい りゅうき
この宮崎平野の一部である西都原一帯（西都市付近）は、海底の隆起によっ
けいせい こうせきだいち ひとつせがわ しんしょく げんざい かたち つく
て形成された洪積台地を一ツ瀬川が浸食して、現在の形が作られました。
さいとばる いったい かいばつ ちてん かいばつ ちてん ひろ だんきゅうめん
西都原一帯は、海拔20～40m地点と、海拔60～70m地点とに広がる段丘面がある
ことから、か こ すく すうかい りゅうき
過去に少なくとも数回は隆起したことがわかります。

(3) 流域の気候

ひとつせがわ
一ツ瀬川がある宮崎県は、南海型気候区と呼ばれる、温暖で雨が多く、冬によく晴れる気候に属しています。しかし、ちけい
地形が入り組んでいて複雑なために、ちいき
地域によって差が見られます。ひとつせがわりゅういき
一ツ瀬川流域では、おお
大きく3つの特徴を捉えることができます。



表：米良（山間部）・西都（平野部）・高鍋（河口部）の、月別平均降水量と月別平均気温

② 一ツ瀬川の変遷 ひとつせがわのへんせん

(1) 河口部の変遷

ひとつせがわ かこうぶ へんせん
一ツ瀬川の河口部分は、昔から位置や形を大きく変えてきました。明治時代以降の記録を見ると、その移り変わりは、大きく分けて4段階にまとめることができます。

めいじ ねん
明治35年 (1902年)



げんざい しんとみちやうおうじ ちく ぼくぶ うみ なが こ
現在の^{げんざい}新富町^{しんとみちやうおうじ}王子地区^{ちく}の北部^{ぼくぶ}で海^{うみ}に流れ込んで
いました。河川^{かせん}は蛇行^{だこう}し、中洲^{なかす}があり、河川の区域^{かせん くいき}は
ほとんど固定^{こてい}されていませんでした。当時から
大湊橋^{おおづちばし}は架けられていましたが、その他は渡し舟^{わたりふね}な
どが活躍^{かつやく}していました。

しょうわ ねん
昭和10年 (1935年)



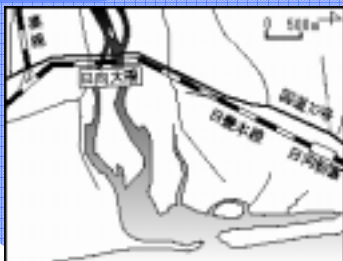
ひとつせがわ なが めいじ ねん か
一ツ瀬川^{ひとつせがわ}の流れは明治35年^{めいじ ねん}とあまり変わっ
ていませんが、堤防^{ていぼう}が築かれ、鉄道^{てつどう}が走ってい
ます。このとき、富田入江^{とみたいりえ}が北^{きた}に伸び、中洲^{なかす}
一部^{いちぶ}陸続き^{りくつづ}となっています。

しょうわ ねん
昭和28年 (1953年)



げんざい さどわらちやうふくしま ちく につたて ちく
現在の^{げんざい}佐土原町^{さどわらちやうふくしま}福島地区^{ちく}から二ツ建地区^{につたて ちく}にかけて
堤防^{ていぼう}が完成^{かんせい}し、湿地^{しつち}の干拓^{かんたく}が進んで水田地帯^{すいでんちたい}となり
ました。また一ツ瀬川^{ひとつせがわ}が海^{うみ}へ流れ込む場所^{なが こ}が南^{みなみ}に
移動^{いどう}しています。

しょうわ ねん
昭和43年 (1968年)



ひとつせがわ えんがん ていぼう かんせい かせん はば
一ツ瀬川^{ひとつせがわ}沿岸^{えんがん}の堤防^{ていぼう}がほぼ完成^{かんせい}し、河川^{かせん}の幅^{はば}
が固定^{こてい}されました。このとき、ほぼ現在の^{げんざい}形^{かたち}が
出来^{でき}上がりました。また、富田干拓地^{とみたかんたくち}が形成^{けいせい}さ
れ、水田地帯^{すいでんちたい}となりました。

(2) 川の流れの変遷

河口部以外でも、一ツ瀬川の流^{なが}れが^かわ^なが^かわ^なっている場所を確認できるところがあります。代表的な例である三財川と一ツ瀬川が合流するところや、杉安橋付近でその変化を見てみましょう。

三財川合流点 昭和22年（1947年）



一ツ瀬川の堤防は整備されていて、その堤防の中を蛇行しています。しかし三財川では蛇行が著しく、自然の川の流れの形を残しています。（赤い丸で囲まれた部分）

三財川合流点 昭和50年（1975年）



三財川が新しくまっすぐな川の流れ（捷水路と呼びます）に整備されています（赤い丸で囲まれた部分）。もとの流れは、三日月の形に残されています（青い丸で囲まれた部分）。

三財川合流点 昭和61年（1986年）



ほぼ現在の形が形成されました。川の流れは昭和50年と大きく変わっていません。

すぎやすばしかりゅうふ きん しょうわ ねん ねん
杉安橋下流付近 昭和22年（1947年）



なかしま すぎやすせき けんせつ なかす
仲島に杉安堰が建設されています。中州
のうち りよう すぎやすせき
は農地として利用されていました。杉安堰
うがながわ のうぎょうようすいろ せいび のうち
より右岸側に農業用水路が整備され、農地
ひろ じゅうたく すく
が広がっています。住宅はまだ少なく、ま
ばらです。

すぎやすばしかりゅうふ きん しょうわ ねん ねん
杉安橋下流付近 昭和61年（1986年）



なかしま なかす こうえん せいび
仲島の中州は公園として整備されていま
す。へいちぶ のうち せいび じょうせいび すす
平地部は農地の整備（ほ場整備）が進み、
のうち ひろ たくち ひとつ せ がわぞ
農地が広がっています。宅地も一ツ瀬川沿
さがん やまぎわ ひろ
いや左岸の山際に広がってきています。

すぎやすばしかりゅうふ きん へいせい ねん ねん
杉安橋下流付近 平成7年（1995年）



なかしまこうえんかりゅう さ す ひろ けいせい
仲島公園下流は、砂洲が広く形成され、
ひとつせがわ なが みず りょう いぜん くら
一ツ瀬川を流れる水の量も以前に比べて
すく
少なくなっています。

(3) 富田入江と二ッ建入江

富田入江は、昔、白い砂と岸边の松によって美しい風景が広がっていました。また、水深が現在よりもはるかに深く、流れもあったため、多くの魚が生息していました。付近の人々は様々な漁法を用いて魚をとっていました。

しかし、昭和27年頃に一ツ瀬川河口をテトラポットで固定したことにより、富田入江の流れが少なくなり、砂がたまって水深が浅くなりました。現在では、土砂の浚渫を行い漕艇競技場とし、浚渫土砂を最奥部に埋め立てて、富田浜公園が整備されています。

二ッ建入江は、干潮時には広大な干潟になることから、ボラやクルマエビ、モズクなどの豊富な魚介類が取れました。

しかし、昭和25年の堤防の完成により、二ッ建入江の入口が閉じられ、塩田や農地、ウナギの養殖場に姿を変えてしまいました。現在では、その中州に架かっていた橋（大洲橋、福島橋）の橋脚と、金毘羅宮が、当時の二ッ建入江の名残をとどめています。

③ 一ツ瀬川の自然 ひとつせがわのしぜん

(1) 一ツ瀬川にすむ魚介類

ひとつせがわ
一ツ瀬川には、たくさんの魚介類がすんでいます。これらは、自分達が住む
のに適した水の温度や周囲の環境があるので、平野部と山間部ですんでいる
魚介類は異なります。

皆さんは身近な場所に住んでいる魚の種類をどのくらい知っていますか？

平野部で主に見られる魚介類



メダカ



アカメ



トビハゼ



オイカワ(赤ベエ、白ハエ)



ヒラメ



ヨシノボリ類



ウナギ



テナガエビ



キチヌ



サヨリ



コノシロ



ギンガメアジ



コイ



モクズガニ (ツガニ)



ナマズ



ギンブナ



マハゼ



クロベンケイガニ



スズキ

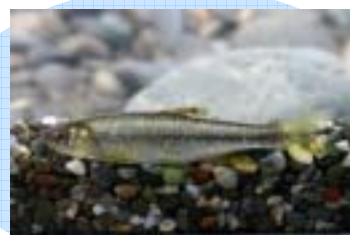


ボラ

その他・・・
コトヒキ、マシジミ、チチブ、
マゴチ、シマイサキ、
アサリ、イシマキガイ、
カワニナ、ヤマトシジミ、
モノアラガニ、ミゾレヌマエビ
など



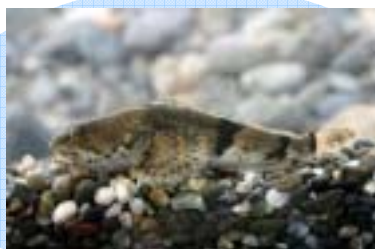
ボウズハゼ



カワムツ



タカハヤ



カマキリ



サワガニ



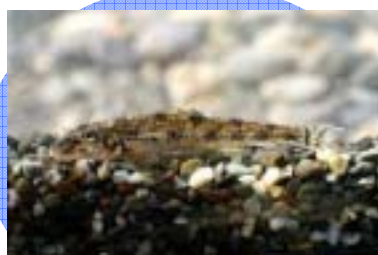
アユ



ウグイ



モクズガニ



カマツカ

その他・・・
トウヨシノボリ、オイカワ

など

(2) 一ツ瀬川流域にすむ陸上生物

一ツ瀬川の流域には、多くの陸上生物も生活しています。深い森が広がる上流の山間部から、河口部の入り江や干潟まで、たくさんの種類の動物が、それぞれ住みやすい場所で静かに暮らしています。
皆さんは、どれくらい野生の動物に出会ったことがありますか？

上流域で主に見られる陸上動物



カスミサンショウウオ

新種発見！ メラシカ

明治8年頃、西米良村深瀬の猟師が狩りで獲ったシカが、昭和23年、宮崎大学の教授により新種であると判断されました。メラシカと名づけられましたが、現在では絶滅したと言われます。



メラシカの角

ダム周辺で主に見られる陸上動物



ヤマセミ



ヤマカガシ



カジカガエル

その他・・・イタチ、タヌキ、アナグマ、テン、ニホンカモシカ、ヤマネ、ムササビ、カワネズミ、ゴイサギ、カワセミ、カワガラス、ベッコウサンショウウオ（オコゼ）、アオダイショウ、カラスヘビ、シマヘビ など

下流域で主に見られる陸上動物



ヒドリガモ



ミサゴ



コアジサシ

その他・・・ハジロ、カルガモ、ツクシガモ、マガモ、コサギ、アオサギ、ササゴイ、アマサギ、クロツラヘラサギ、ウミウ、セイタカシギ、イソシギ、ガンサシ、チドリ、カイツブリ、カモメ、ゴイサギ など

(3) 一ツ瀬川流域の植物

一ツ瀬川流域で最もよく見られる植物は、シイやカシの林や、スギやヒノキの植林です。九州中央山地国定公園に指定されている上流部では、自然のままの森林が多く残り、豊かな環境を見ることができます。



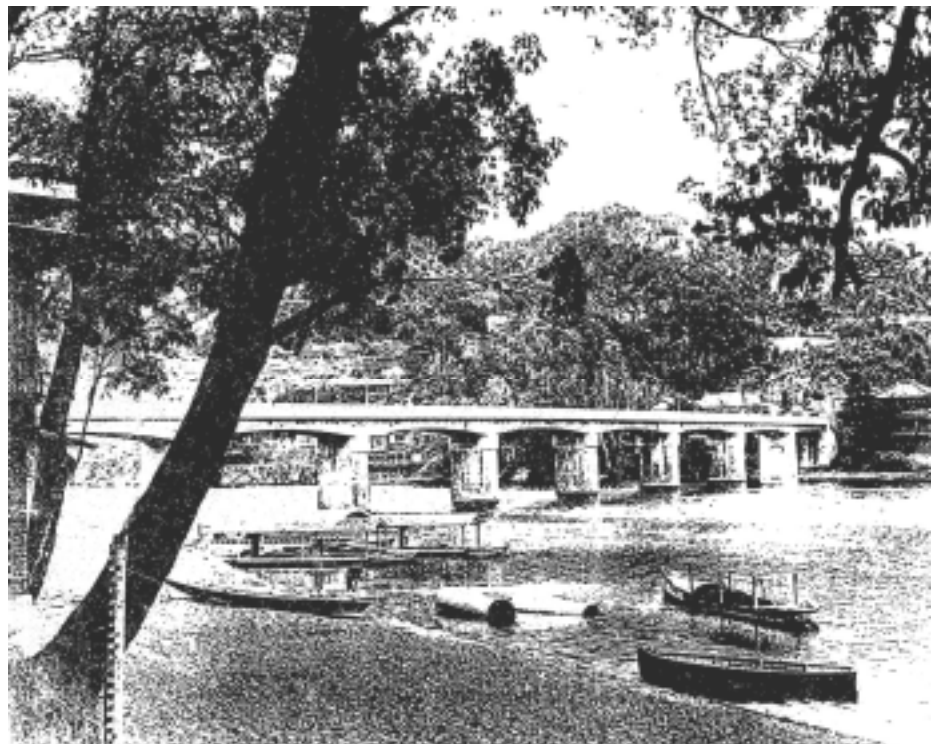
④ 一ツ瀬川の景観 ひとつせがわのけいかん

(1) 杉安 -日向の嵐山-

現在の西都市杉安には、一ツ瀬川の兩岸に山が迫ってできた美しい風景の杉安峡があります。かつてはこのすばらしい景色を求めて多くの観光客が訪れ、いつもにぎやかで優雅な雰囲気を持っていました。そのため、京都でも景色の美しい場所として有名な嵐山にたとえられ、「日向の嵐山」と呼ばれていました。

現在では観光客が訪れることは少なくなりましたが、今でも美しさは健在です。

杉安橋と屋形船



(2) 山村の景観 - 藁葺き屋根の集落 -

にしめらそん おがわ かこい ちく めいじじだい まつき ふうけい しゅうらく わらぶ
西米良村小川、囲の地区の明治時代末期の風景です。集落のほとんどが藁
葺き屋根でできており、のどかな山村風景が作られていました。

(3) ダム湖に沈んだ村々

ひとつせ けんせつ にしめらそん ちく こしのお よこの おがわ むらしょ
一ツ瀬ダムを建設するときに、西米良村の4地区(越野尾、横野、小川、村所)、
旧東米良村(現在の西都市)の3地区(中尾、八重、銀鏡)は、ダム湖の底に
水没することが決定しました。これらの地区に住んでいた人々は、学校などの
周辺施設を含めて、大規模な移転を行いました。写真などで在りし日の
風景を見ることができます。



写真：昭和33年頃の越野尾地区



この写真の高台の上にある
昔の学校の校庭は、一ツ瀬
ダムの水位が下がったとき
に見ることができるんだっ
て！



写真：道路に接して建てられた住宅

(4) 穂北

西都市の西都原台地の国道219号線を東に進むと、肥沃な水田地帯が広がります。江戸時代に天領（幕府の直轄地）だった穂北は、杉安堰の完成により、一ツ瀬川から水を引いて灌漑を行い、穂北平倉地帯を作り上げました。1区画の大きい水田は、たっぷりと水を含み、秋の収穫期ともなると黄金のじゅうたんのように美しい風景を作り出します。



二ツ瀬川流域の暮らし

ひとつせがわりゅうぎのへらこ



① 流域の名前の由来 りゅういきのなまえのゆらい

(1) 河川の名前の由来

ひとつせがわ ゆらい 一ツ瀬川の由来

かつて、一ツ瀬川は地域によって様々な名前と呼ばれていました。しかし、古い書物において「一之瀬川」と書かれたものが発見されています。一之瀬とは、西米良村と西都市の境で一ツ瀬川と銀鏡川が合流する地点にある一之瀬という地名から名づけられました。これが現在の一ツ瀬川という呼び名のルーツになっているといわれています。

ほかにどんな呼び方を
していたんだろう・・・



その他には・・・

「穂北川」(伊倉村)、佐土原川(新田村、下富田村)、
「福島川」(下田島村) などと呼ばれていました。



だいこんがわ みのがわがりがめばし ふきん ゆらい 大根川(三納川雁亀橋付近)の由来

一ツ瀬川に流れ込む三納川は、雁亀橋の付近だけその地区の人に「大根川」と呼ばれています。毎年大根の収穫時期になると、この地区だけ水が流れなくなるため、大根が洗えなくなってしまう。そのためにこの地区の人は、あえて「大根川」と呼んだのです。

なんで水が流れないんだ
ろう？



大根川には古い言い伝
えがあるみたいよ

大根川伝説は全国各地
にあるんだって



(2) 流域の地名の由来

一ツ瀬川の流域の地名にも、様々な由来や言い伝えが残されています。皆さんはどれくらい知っていたかな？

王子

一ツ瀬川の河口の北側に、王子地区があります。「王子」という名前は、神武天皇（最初の天皇）が幼少時代に遊んだ場所だということで、名づけられたと伝えられています。

西都市に都萬神社という神社があります。この「つま」という呼び方が、現在の「妻」地区の地名の由来であると言われています。都萬神社は今から1000年前の平安時代の書物に登場しており、その頃からあるとても歴史のある神社です。



写真：都萬神社

-写真：さいと-古代ロマンとあふれる自然-

妻

佐土原

「佐土原」の地名の由来は2つの説があります。1つ目は、昔からこの地方にはサドガラと呼ばれる竹に似た植物がよく茂っていたので、サド原と呼ばれたという説です。2つ目は、「里原」という地名に由来します。「里原」とは昔から多くの人々が集まり住む地区のことを指しており、佐土原が昔から栄えていたことを示しています。



写真：サドガラ（イタドリ）

銀鏡には、神話にもとづく由来があります。イワナガヒメという姫が自分の顔を鏡に映したところ、龍の顔が映りました。びっくりした姫は鏡を放り投げたところ、東米良まで飛んできて木の枝に引っかかりました。この鏡が白く光っていたことから、銀の鏡と書いて「しろみ」と呼ぶようになったと伝えられています。



写真：銀鏡神社

-出典：「ひむか神話街道 50 の物語集」

銀鏡

椎葉

「椎葉」は、壇ノ浦で破れた平家の一族が隠れ住んだ所として有名な土地です。この地域の平家の残党が厳島神社（広島県）を祭ったときに、その神社の屋根をシイの葉で造ったことから、椎葉と呼ばれるようになったと伝えられています。

新富町の新田に「船津」という場所があります。太古の昔、ヒコホホデミノミコトが一ツ瀬川を下る船を着けたのがこの岸であったため、船津という地名になったという神話があります。ちなみに「津」は船着場を意味する言葉です。

船津

「三財」の名は、室町時代にその原型である「散財」の地名が記述されています。この頃は、散財の他に「上散財」と「下散財」の2つの地区があったことが推測され、この3つの散財を合わせて、今の「三財」になったと考えられています。

三財

西米良村の「田無瀬」地区付近は、川に多くの魚が集まり、漁に適した場所でした。ここでは「タブ」という魚をすくう道具を使って魚をすくいあげていました。このため、この地が「タブの瀬」といって語り継がれ、現在の「田無瀬」という名前になっています。



写真：昭和9年頃の田無瀬

田無瀬

一ツ瀬川に架かる新瀬口橋のたもとにある「船倉」という地区は、昔、西都方面の産物を福島港まで荷物を運ぶ小船が出入りする場所であり、船の倉庫が多くあったことから「船倉」と呼ばれるようになりました。一ツ瀬川は川底が浅かったため、大型船が通ることができませんでした。よって、当時は小船が大活躍していました。

船倉



地名にはいろいろな理由があるんだね



他にもいっぱいありそうだね、調べてみよう！

② 流域の伝説・言い伝え りゅういきのでんせつ・いいつたえ

ひとつせがわ りゅういき さまざま でんせつ い つた のこ みな き
一ツ瀬川の流域には、様々な伝説や言い伝えが残されています。皆さんが聞いたことのあるお話しはあるでしょうか？

物語り
ものがた

桜川の桜子
さくらがわ さくらこ

西都市 法元
さいとし ほうげん

さいとし ほうげん なが かわ じもと ひと さくらがわ よ
西都市の法元に流れている川を、地元の人々は桜川と呼んでいます。

むかし さくらこ な むすめ はは ふたり ほそぼそ く
その昔、桜子という名の娘が母と二人で細々と暮らしていました。

さくらこ ちち さくらこ う たかい はは ばたら で
桜子の父は、桜子が生まれるとすぐに他界してしまったので、母が働きに出て日々の暮らしを立てていました。

ひ はは かりう ね こ
しかしある日、母が過労で寝込んでしまいました。

ころ ひと か おこな
ちょうどその頃、人買いがよく行われていました。

さくらこ み う だいきん くすり か はは てがみ のこ
桜子は、「わたしの身を売った代金で薬を買うように」と、母に手紙を残して行先も告げずに出て行きました。

いきさき つ で い むすめ あと お ゆくえ
それを知った母は、必死になって娘の後を追いかけてましたが、行方はわかりませんでした。

さくらこ ひたち くに げんざい いばらきけん き ひと か わるもの
桜子は常陸の国（現在の茨城県）まで来ましたが、人買いがあまりに悪者だったために逃げ出し、磯辺寺という寺の住職に助けられ、三年の月日がたちました。

ひ じゅうしょく てら した なが さくらがわ
ある日、住職が寺の下を流れる桜川で、
ひとり おんな さくらがわ こ さくらこ
一人の女が「ここは桜川 わが子は桜子 な
つかしや こいしや」と歌っているのを見かけ
ました。たずねてみると、「自分は筑紫日向のも
ひひとり こ ひとぢち あと
ので、たった一人のわが子の人質にとられ、後を
お 追ってここまで来たが、見つけることができない。」と女は言いました。

おも じゅうしょく おんな さくらこ あ
さてはと思い、住職はその女を桜子に会
はは こ だ あ さいかい よるこ
せたところ、母と子は抱き合い、再会を喜びま
した。そして、母の病氣も治り、親子連れ立っ
はは びょうき なお おや こつ た
て郷里の桜川に帰りました。



かみたじま つつみ すぎたろくのすけひでつぐ おし す
上田島の 堤 に杉田六之助秀次という武士が住んでいました。
ろくのすけ ちく きたがわ なが さんざいかわ なかま いっしょ ほり まちあみ
六之助は、地区のすぐ北側を流れる三財川に、仲間と一緒に梁（待網）をし
かけました。しかし、ここ数日曲者が 出 没 し 漁 を邪魔しているのです。今夜も
また、誰かが だれ りょう じゃま 漁 の邪魔をしていました。

「さてはまたきおったな、よし覚えておれよ。今日こそは。」 おぼ きょう

と、手もとのナタ鎌を握り暗い水面をぐっとにらみつけ、ナタ鎌をふりおろ
しました。

「ギイッ！」

という泣き声（な こえ）があがり、確（たし）かな手ごたえがありました。すると、みず しぶきの中
から黒い怪物（くろ かいぶつ）が浮き上がり、六之助（ろくのすけ）はその怪物（かいぶつ）をつかんで川原（かわら）にたたきつけま
した。動か（うご）なくなつた怪物（かいぶつ）は、河童（かっぱ）でした。

ところが数日後（すうじつご）、堤（つつみ）には多く（おお）の病人（びょうにん）がでてきました。
ろくのすけ ねつ つづ ゆめ なか かっぱ あらわ
六之助（ろくのすけ）も熱（ねつ）にうなされ続けました。その夢（ゆめ）の中に河童（かっぱ）が現（あらわ）れ、

「漁（りょう）の邪魔（じゃま）をしたことは悪（わる）かった。許（ゆる）してくれ。でも、私（わたし）をいつまでも
かわら さら しゃ うら
河原（かわら）に晒（さら）し者（もの）にすることは恨（うら）みます。」

と、言（い）いました。
ぎょうそう すご ろくのすけ
その形相（ぎょうそう）が凄（すご）かったため、六之助（ろくのすけ）は、

「そりゃ、わし（わ）が悪（わる）かった。許（ゆる）してくれ。」

と 話（はなし）を 続（つづ）けようとしたところ、夢（ゆめ）から覚（さ）めてしまいました。

そこで、ろくのすけ かっぱ ていちょう とむら かわら きよ いし つ
六之助（ろくのすけ）はひからびた河童（かっぱ）を丁重（ていちょう）に 吊（と）い、河原（かわら）を清（きよ）め、石（いし）を積（つ）ん
で 葬（ほうむ）ると、その後（ご）はぴたりと病氣（びょうき）は止（や）んだと言（い）われています。

銀鏡しろみ ゆらいの由来となったイワナガヒメは、「米良めら」という地名ちめいについても、その由来ゆらいとなる物語ものがたりを持っています。

イワナガヒメは、一ツ瀬川ひとつせがわをさかのぼって米良山中めらさんちゅうへ向かい、今の穂北いま ほきたの笹ささの元もとから竜房山たつふさやまを経て小川へ おがわに出向でむきました。

その後、自らご みづか田たをつくり、実りゆたかな収穫みの しゅうかくを見て、「ヨネヨシヨネヨシ」
(米良こめよし、米良こめよし)と喜びよろこびました。

これが「米良」の名なの起こりおりであるといわれています。



三納には、八方塚という 1000m 級の山が1つあり、そこから流れ出した九つの川が1ヶ所に集まったところが九流水です。

その九流水のお寺の前に、川下の方を向いた大きな乳がある不思議なエノキの木が生えていました。その乳房からは乳が流れていたことから、村人はこの木を「お乳の木」と呼んでいました。

乳飲み子を持つ母親たちは、乳が出なくなると「お乳の木」にお参りしました。すると、不思議なことにお乳が出るようになるので村中の評判になり、遠い所からもお参りに来るようになりました。

ある年、畑にのびてきた「お乳の木」の根を切ってしまいました。

すると、だんだんお乳も出なくなり、「お乳の木」は枯れてしまいました。

それからは村に不吉なことばかりが起こり、翌年には大洪水になりました。

村人は相談して、代わりになるエノキの木を、隣村の穂北でどうにか見つけ、それを元の場所に植えつけました。

すると不思議なことに、その年から洪水もなくなり豊作が続きました。やがてこのエノキの木もぐんぐんと枝がのび、2つの乳房が出てお乳が滴り始めました。

ふたたび近隣の村々などからこのお乳の木にお参りする人が多くなったということです。



めぐりぶち いま あさ たにがわ いたやがわ ふち なが ぜんちょう
 曲 淵は、今でこそ浅い谷川（板谷川）ですが、かつてこの淵の長さは全長
 110m、幅24mほどのやや曲がった深い淵で、水神の邸とされており、勘介
 とチヨ夫婦の悲しい物語が伝えられています。

～ 勘介とカップ ～

ある日、勘介はこの川筋の見回りを行っていました。先の大雨で川の水かさ
 が増えて橋が1本壊れたため、勘介が橋をかけるための石積みをしていたと
 ころ、カップを見つけました。勘介は、

「この間から石積を片っ端から崩しているのはこいつだな」と感づき、
 カップに飛びついて捕まえ、カップを家の納屋の柱にくくりつけました。
 その後、カップは縄を切り、川の方へと逃げ去りました。夕方帰宅した勘介は、
 何もとがめる事無く、

「これでカップもいたずらを止めるだろう」
 と言いました。



～ チヨの祈願／豊 獵によろこぶ ～

獵の好きな勘介でしたが、とある秋、どうも獵がうまくいきませんでした。
 チヨは勘介を心優しく慰め、昔から水神様の淵と噂される曲 淵へ行き、

「勘介の獵が効くように、来春の彼岸までに私の命をお預けします。」

と曲 淵水神に三日間通い続けて祈願しました。その後、勘介は獵にできれば
 猪や鹿を持ち帰り、その年は豊 獵でした。

～チヨの死～

春が近くなったある日、チヨは満願の御礼に曲 淵の岩の前に立ち、しばらく
 の猶予をお願いし、家に帰りました。

しかし、家にたどりついた時、パッタリと倒れ、息絶えてしまいました。

勘介は驚き、悲しみ嘆きました。

勘介はチヨを懇ろに葬り、曲 淵の辺りに小さな祠を建て、ここに水神を祀
 り、100日間参り続けました。その後、勘介は神事を習い、曲 淵水神の神主と
 なり、チヨの霊を吊ったと言われています。

にしめらそん むかし おお いし ひつ しほう
西米良村には 昔 から大きな石の櫃（4～5m四方）がありました。

とき おに まいばんまち むら あら まわ たからもの ぬす ひつ なか
ある時、鬼どもが毎晩町や村を荒し廻って宝物を盗んできては、この櫃の中
かく
に隠していました。

し むらひとびと ひつ あ さが あ と たからもの と
これを知った村の人々は、この櫃の在りかを探し当てて取られた宝物を取り
かえ
返すことにしました。

たいへん
「さあ大変」

おに おお いしびつ も に こと
と鬼どもは、この大きな石櫃を持って逃げる事にしました。

めらがわ くだ はじ こしのお てまえ き よる あ
米良川を下り始めましたが、越野尾の手前に来たところで夜が明けてしまい
ました。

かわ なか お いしびつ み まち むら ひとびと たからもの と もど
川の中に置いてある石櫃を見つけた町や村の人々は、宝物を取り戻そうとし
ましたが、はら あたま あきら かわ なか お
腹がせくやら、頭がうなるやらで、とうとう諦めて川の中に置い
かえ
たまま帰りました。

ひ やまし ひつ だん と ため ひ
ある日、山師たちがこの櫃のそばで暖を取る為に火をたいていました。する
と石の櫃が「ウオーン、ウオーン」と音を出してうなりだし、おどろ やまし
いし ひつ おと だ
は道具などほっぽり出して逃げました。

ご つた いし おにびつ い
その後、トモース、カッチンと伝え、この石を鬼櫃と言うようになりました。

げんざい ひつ きゅうしゅうでんりょくひ とつせ がわでんげんかいはつこうじ さい ばくさい ひ とつせ
現在、この櫃は九州電力一ツ瀬川電源開発工事の際に爆砕され、一ツ瀬ダ
ム こてい しず み
ムの湖底に沈んでいることから、見ることはできません。

むかし めら さと そ しる うるし あつ く きょうだい
昔、米良の里にウルシを掻いで、その汁（漆）を集めて暮らしている兄弟
がいました。

あに やま うるし そ とき おの かわ なか お
兄がいつものように山で漆を掻いでいる時によき（斧）を川の中に落として
しまいました。兄が水に飛び込み淵の底を探していたところ、驚いたことに、
ふち そこいったい うるし た そこ さが おどろ
淵の底一帯には、漆がゆったりと溜まっていた。兄はずっと昔、この辺に
はウルシの大木が沢山生えていたという話を思い出しました。洪水のとき、ウ
ルシが倒れたり皮がはげたりして、雨に流されて漆が淵に溜まったのです。兄
ふち うるし と う い うるし たか う
は淵の漆を取って、売りに行ったところ、その漆は高く売れました。

おとうと あに ひとり うるし と い じょうとう うるし と
弟は、このごろ兄が一人で漆を取りに行くことや、上等の漆を取ってく
ることが気になっていました。そこで、弟は兄の後をつけ、淵の漆の秘密を
し あに かく ふち うるし と
知り、兄に隠れて淵の漆を取るようになりました。それに気づいた兄は、どう
したらひとり占めできるかと考えました。

とき あに き ぼ りゅう か りゅう ふち い みず ちから しぜん うご
ある時、兄は木彫りの龍を買い、その龍を淵に入れ、水の力で自然に動く
ように仕掛けようと考えました。その龍を淵に入れる時に、
りゅう ふち うるし まも りゅう はな
「龍よ。この淵の漆を守るのだ」と、龍に話しかけました。

おとうと うるし と もぐ おそ りゅう おそ
弟が、いつものように漆を取りに潜ると、恐ろしい龍が襲いかかってき
たため逃げ帰りました。それを見て兄は安心し、次の日、淵にゆっくりと潜っ
ていきました。すると、目玉をぎらつかせた龍が急に襲いかかり、今にも兄を
めだま りゅう きゅう おそ いま あに
飲み込もうとしたため逃げ帰りました。木彫りの龍に、いつの間にか魂が入
っていたのです。それからは、二人とも、淵の漆を取りに行くことができませ
んでした。兄は、弟と仲良く漆を取ればよかった、と後悔しました。淵には、
じょうとう うるし たくさんのこ
上等の漆が沢山残っていたのですから・・・。

じっさい にしめらそん おがわがわ じゃぶち そんざい しゅうへん いわ けず ふか けいこく
実際に西米良村の小川に蛇淵は存在します。周辺の岩は削られて深い渓谷
になっていますが、蛇淵だけは白くてスベスベした花崗岩が細長く走っており、
けず のこ たき ました ふか ふち
削り残されて滝となり、真下に深い淵ができています。

しゅうへん がけち み しよくぶつ なか こうよう うつく うるしえき い
周辺の崖地に見られる植物の中には紅葉が美しく、漆液をだすと言われ
るハゼノキ・ヤマハゼ・ヤマウルシが多く生育しています。この周辺で漆を
さいばい きろく おお せいいく しゅうへん うるし
栽培したという記録はありませんが、蛇淵の底に漆が溜まっていたという話
には真実味があります。



③ 流域の産業

りゅういきのさんぎょう

(1) 水産業と漁法

一ツ瀬川には、昔からたくさんの魚介類が生息しており、これらの魚介類は周辺に住む人々にとっての貴重な食料源となっていました。しかし、魚がいれば食料になるわけではなく、当然、まずは魚をとらなければなりません。現在では投網、金つき、かご、釜、釣りなどが行われていますが、昔の一ツ瀬川では、いろいろ工夫された様々な漁が行われていました。

現在の漁法



写真：友釣り（アユ）



写真：釣り（カセバリ）



写真：金つき



写真：かご（蟹かご）



写真：ウナギタカンポ

どうやって使うんだろ
う？調べてみよう！



昔の漁法（昭和30年くらいまで）



竹芝つけ



チヌかご



センつなぎ



船うち



建て網



ながし



待ち網



戸板引き



ノポリ子取り



貝殻引き



帆掛釣り



うぐい（うぎい）

(2) 製塩業

一ツ瀬川の河口付近は、昭和のはじめまで、県内有数の製塩地でした。しかし時代と共に、かつての塩田だったところは水田や養鰻場へと変わってしまい、現在では区割り以外には面影がほとんど残っていません。

ところで、「塩」はどうやって作られるのか、知っていますか？

(3) 林業

一ツ瀬川の上流、椎葉村や西米良村がある日向地方の九州山地には、良い木材が取れることで有名であり、昔から林業が盛んでした。明治時代までは主にマツが切り出され、その後はスギ・ヒノキの植林が栄えました。

大正時代までは、切り出した丸太はそのまま一ツ瀬川を流して河口まで運ばれ、船で日本全国に出荷されていました。大正時代に妻線（鉄道）が開通してからは、現在の西都市杉安まで一ツ瀬川を流し、そこで拾い上げて製材して、貨物列車で全国へと出荷されていきました。

重い木材は、川に流して運ばば楽に運べるんだ！



写真：木馬を使った木材の運搬

(4) 製炭業

西米良村には、炭の原料になる良い木材が昔から豊富にあったのですが、交通の便が悪かったためにほとんど作られていませんでした。しかし明治時代に県道が開通すると、急激に炭が作られるようになり、昭和20年代には炭の生産量が“日本一”になりました。現在は炭の利用が減少し、かつての繁栄を見ることができなくなりました。



写真：炭焼小屋（イメージ）

(5) 農業 - 焼畑（コバ）

米良地方は、そのほとんどが急な斜面を持つ山で形成されているので、ほとんど畑を作ることができませんでした。そのため、山の斜面の樹木を切り、草や低木を焼き払って畑を作り出す「焼畑」が行われていました。

大木を切って木材や炭の原料として売り、残った草木や低木を焼き払い、畑にして作物を栽培し、土の養分がなくなったら15年くらい手をつけずに放っておいて、再び樹木が茂ってきたら、その樹木を切って木材に・・・というように、限られた資源をうまく活用する生活の仕組みを作りだしていました。

焼畑の仕組み

貴重な食料源の糸巻き大根です

野菜を収穫している様子です



養分がなくなると、再び樹木が育つまで放置しておき、再び活用していきます。



森を切り開き、草木を焼きます



焼けた灰を肥料にして、畑にします



穀物が育った様子です

(6) 農業 -各地の農作物-

一ツ瀬川の流域は、平野部を中心に農業が盛んに行われています。平地では稲作が行われ、台地では畑が作られています。西都市などでは全国有数の農作物の生産地となっている品目もあります。

どこで何が作られているか、わかるかな？

椎葉村



村の総土地面積の96%（ほとんど）を山林で覆われているため、夏の涼しい気候を活かし、夏秋野菜や菊などの花が生産されています。その他、全国有数の生産量を誇るシイタケや、ソバの生産も盛んです。

村の総土地面積の96%（ほとんど）を山林や原野で覆われており、ユズやホオズキなどが生産されています。また、パンジーやスターチスといった花の苗の栽培も行われています。

西米良村



西都市



野菜、くだものを中心とした園芸に加え、稲作も盛んに行われています。中でも、ユズ、マンゴー、キンカン、葉タバコは全国有数の生産地です。しかし、なんといってもピーマン、スイートコーン、にがうりは、全国で第1位の生産量を誇ります。

温暖でよく陽のあたる気候を利用した園芸が盛んで、キュウリ、ニガウリ、トマト、ショウガ、ユリなどの花、などの栽培が盛んです。特にテッポウユリは県内第1位の生産量を誇り、品質も評判も良い佐土原ブランドを作っています。

佐土原町



新富町



水田と畑がほぼ半分ずつの割合で農業が行われています。水田地帯では早期稲作、高台の畑地帯では、葉タバコ、茶、花などが栽培されています。その他に、ソバの生産も有名です。

④ 流域の交通

りゅういきのこうつう

ひとつせがわ りゅういきさまざま こうつうしゅだん はったつ
一ツ瀬川の流域には、様々な交通手段が発達してきました。

くまもと さどわら しろしたちやう あいだ ふる めら かいどう はし たいせつ こうつうろ やくわり
熊本と佐土原の城下町との間には、古くから米良街道が走り、大切な交通路としての役割を果たしてきました。

もくざい りゅういきさんぶつひとつせがわつかしゅうんかこうふくしまこうはこ
木材をはじめとした流域の産物は、一ツ瀬川を使った舟運で河口の福島港まで運ばれていました。そのほかの交通手段として、人々が舟、箆板、徒歩などで川を渡るための「渡し」や、妻線と呼ばれる鉄道もありました。

こうつうしゅだんじだいながやくわりおこんにちいた
こうした交通手段は、時代の流れとともに徐々にその役割を終え、今日に至っています。



いま どうろ
今は道路しかないけど、
むかし のもの
昔はいろんな乗り物や
みち
道があったのね

3 流域の交通

1) 街道（米良街道）

- ：米良街道（国道219号）
-：旧米良街道（米良往還）
- ：旧米良街道（塚磨往還）
- ：尾泊

2) 鉄道（妻線）

- ：妻線
- ：駅
- ・杉安駅
- ・穂北駅
- ・妻駅
- ・黒生野駅
- ・西佐土原駅
- ・佐土原駅

3) 舟運

- ：福島港



(1) 街道（米良街道）

米良街道は、佐土原から一ツ瀬川に沿って西の九州山地に向かい、米良山の横谷峠を越えて熊本県へと続いています。米良街道には、かつては狭くて急な道が多く、人や牛馬はとても苦労して街道を行き来していました。やがて、道幅が広げられたり、街道の通る場所が変更されたりしたため、今では大きなトラックが通れる道になっています。



昔はこういう車が走ってたんだね！



写真：オート三輪車

写真：木炭で走る自動車



(2) 鉄道（妻線）

妻線は、大正の初めから昭和の終わりごろまで、宮崎から佐土原を通り、杉安に至る区間に走っていました。妻線は、沿線の人々の足として、さらに米良方面の山から採れる産物を運搬する手段として、活躍していました。しかし、自動車の普及などにより、少しずつ乗客や運搬する荷物が減り、昭和59年に廃線となりました。



写真：杉安駅舎



線路や駅は、今どうなっているんだろう？



写真：在りし日の杉安駅ホーム

(3) 舟運しゅううん

かつて、しいばそん 椎葉村やにしめらそん 西米良村から切り出された木材などは、一ッ瀬川もくざい を流して河口の福島港はこふくしまこう まで運ばれていました。福島港では、関西方面かんさいほうめん に向かう荷物の積み降ろしが活発おこな に行われ、港の周辺しゅうへん は大変にぎわっていました。

また今では一ッ瀬川の各所に橋が架かっています。しかし、かつて人々は「渡し舟わたぶね」と呼ばれる舟で川を渡っていました。



写真：昭和30年代の渡し船わたぶね

⑤ 流域の建造物

りゅういきのけんぞうぶつ

ひとつせがわ りゅういき はるか むかし きず きょうみぶか けんぞうぶつ
一ツ瀬川の流域には、はるか昔に築かれた興味深い建造物がいくつもあります。

むかし ひとびと つく つか
昔の人々は、なぜこれらを造ったのでしょうか？そして、どのように使っていたのでしょうか？
けんぞうぶつ
建造物のいくつかを見てみよう。

かわ じゅうきょ た かた かんけい さいとししろみちく
(1) 川と住居の建て方の関係 -西都市銀鏡地区では-

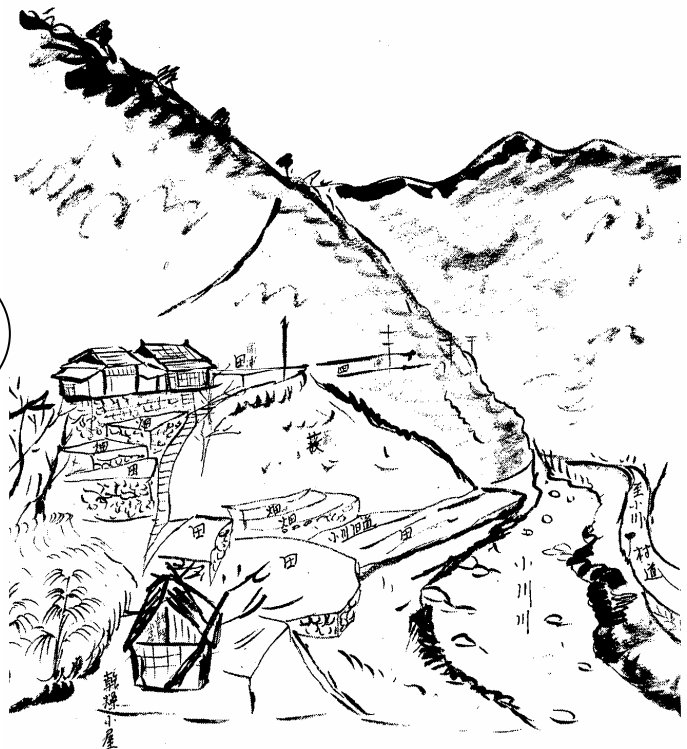
さいとししろみちく じゅうきょ おもや ほうい みなみむ きほん
西都市銀鏡地区では、住居は母屋の方位を南向きにとることが基本であ
り、北向きには建てないという伝承が強く残っています。この考え方は、
きたむ た でんしょう つよ のこ かんが かた
良い飲料水が取れるかどうかということです。

しかし、すいり もと かせん せつきん はんめん すいがい きけん のが
水利を求めて河川に接近する反面、水害の危険からも逃れなけれ
ばなりません。よって、かわ ちか ゆる しゃめん とち きょじゅうち えら
川に近く緩い斜面の土地が居住地として選ば
れています。

じっさい へいち どうろぞ さんち ちゅうふく かわぞ かわ ちか けいしゃ とち
実際は、平地や道路沿い、山地の中腹、川沿いや、川に近い傾斜の土地な
どに しょくぎょう さんぎょう かんけい かんが つく
職業や産業との関係を考えて作られています。



いえ た ばしょ
家が建てられている場所
には、いろんな理由がある
んだね



絵：昔の越野尾地区（出典：古里越野尾）

(2) 城

都於郡城は今から 600 余年前に伊東氏の祖先である伊東大和守祐持が築いたものと伝えられています。

廻りを崖に囲まれた高台の上にあり、西北方には三財川が流れ、これが周囲の敵から城を守る役割を果たしていました。

遠くから眺めた様子が、舟が浮いているように見えたことから、別名「浮舟城」と呼ばれています。



写真：都於郡城跡

出典：さいと-古代ロマンとあふれる自然

(3) 古墳群

古墳とは、かつて権力をふるっていた豪族の墓のことをいいます。

一ツ瀬川流域は、特別史跡公園の西都原古墳群（西都市）をはじめ、数々の古墳が大地に存在しています。国内の各河川の流域の中でも特に古墳の数が多く、また種類も多く、さらに古墳の大きさも随一です。



写真：飯盛塚



写真：鬼の窟古墳



写真：陵墓参考地（男狭穂塚、女狭穂塚）

⑥ 流域の土木構造物 りゅういきのどぼくこうぞうぶつ

一ツ瀬川の流域には、人々の暮らしを支えるさまざまな土木構造物があります。

なかでも、長い年月に渡って暮らしを支え続けてきた施設を「土木遺産」と呼びます。土木遺産の中には、いまだに現役で活躍しているものもあれば、その役目を終えたものもあります。役目を終えた施設であっても、それまでの働きに感謝し、大切に保存されているものもあります。

(1) 堰

川から農地に水を引き入れることなどを目的として、川の水位を高めるために、川の流れをせき止める施設を堰といいます。一ツ瀬川にも、杉安井堰や金丸堰など、いくつかの堰があります。なかでも杉安井堰は、江戸時代、大変な工事の末に完成し、それ以来多くの田畑を潤してきました。

また、明治時代に完成した金丸堰とそれに続く伊倉用水路も、水田の灌漑に役立っています。

江戸時代の大変な工事
ってどんな工事だろう？



写真：金丸堰



写真：杉安井堰

(2) 橋梁

一ツ瀬川流域には、流域に暮らす人々の往来を支える、多くの橋が架かっています。また、その種類も様々です。潜水橋と呼ばれる橋は、洪水になると水没し、通行不能となってしまいます。なぜでしょう？ それは、洪水時の水の抵抗をできるだけ少なくし、橋自体が流されないよう工夫されているためです。そのほかにも、百間橋と呼ばれる木橋や吊橋、架橋技術の粋を集めた米良街道の11橋など、いろいろな橋があります。

橋 いろいろ...



写真：千田潜水橋



写真：一ツ瀬11橋



写真：柳瀬潜水橋



写真：千畑潜水橋



写真：福島潜水橋



潜水橋には欄干がない
ものが多いみたい。
なぜだろう？

いろいろな種類の
橋があるんだね。



(3) 砂防施設

山から流れる土砂を抑えて、川の流れを安定させ、災害を防ぐための施設を砂防施設といいます。一ツ瀬川流域では、黒木正英旧三納村長が砂防施設の設置に力を尽くし、「砂防村長」と呼ばれていました。

(4) その他

他にも、川郎淵隧道など、一ツ瀬川流域には人々の暮らしを支え続ける数多くの土木遺産があります。



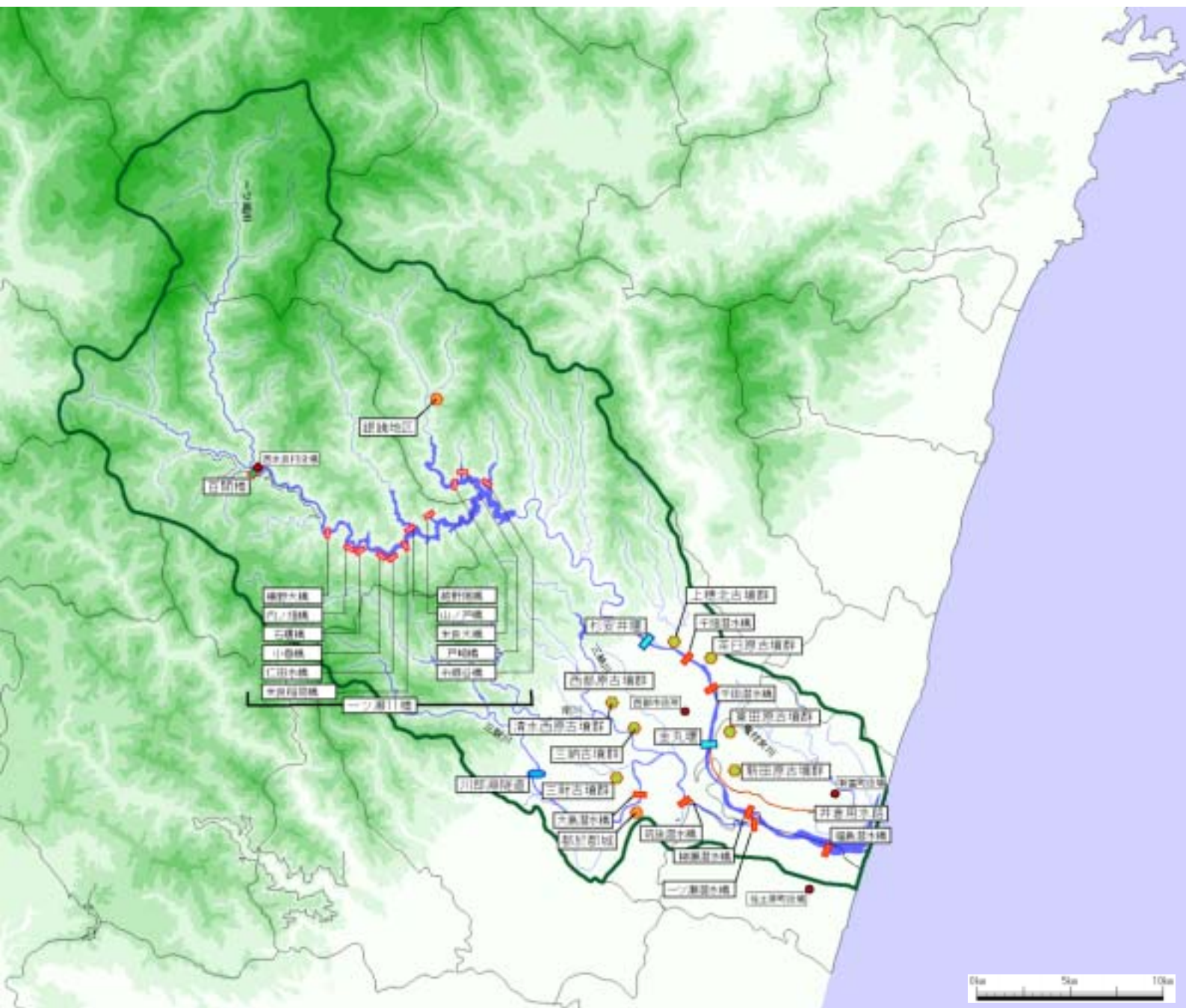
どこにどんな遺産があるのか、^{いさん}見つけてみよう！
もう、^み知っていたかな？

⑤ 流域の建造物

- 1) 川と住居の建て方 (西都市銀鏡地区) ●
- 2) 三財川と都於郡城 (西都市) ●
- 3) 古墳群 (西都原古墳群と一ツ瀬川流域の古墳群) ●

⑥ 流域の土木建造物

- 1) 堰
 - i) 杉安井堰
 - ii) 金丸堰
- 2) 橋梁
 - i) 潜水橋
 - ii) 百間橋
 - v) 一ツ瀬11橋
- 3) その他の土木遺産
 - i) 井倉用水路
 - ii) 川郎洲隧道



⑦ 流域の文化人 りゅういきのぶんかじん

ひとつせがわ りゅういき おお ぶんかじんたち はいしゅつ じぶんたち
一ツ瀬川の流域は、多くの文化人達を輩出してきました。自分達のふるさと
にはどんな人がいたのか、知っていますか？

伊東マンショ



伊東マンショは、都於郡城主の伊東家の末裔で遺欧使節として渡欧した人物です。母の伯父、大友宗麟の縁で、マンショが遺欧使節に加わったのです。今から400年くらい前のことです。

欧州に着いたマンショたちは、欧州各国の国王や教皇に謁見し、約8年後に帰国しました。この使節の果たした最大の役割は、当時の西欧社会に日本の存在を知らせるとともに、印刷などの西洋文化を持ち帰ったことです。

児玉久右衛門



児玉久右衛門は、杉安井堰を建設した土木技術者です。

児玉久右衛門は、元禄2年(1689年)に穂北郷の庄屋の息子として生まれました。ところが、この地帯は水利の便が非常に悪く、とれるお米は年貢の10分の1程度で、先祖代々引き継がれた農地を手放す農家も少なくありませんでした。これを見かねた久右衛門は、米良川(現一ツ瀬川)より水を引き、水田の造成を行うことにより米の収穫量を増加させることを考え、実行しました。

一ツ瀬川の杉安頭首工のほとりにある「西都市土地改良歴史資料館」では、久右衛門の偉業や農業農村整備についての展示があり、たくさんの方が訪れています。

菊池家(米良家)

菊池家(米良家)は、西米良村及び旧東米良村を中心とした米良地方を治めていた領主として、一ツ瀬川流域の人々に広く知られる文化人の家系です。

古くは藤原鎌足の末裔といわれ、江戸時代には米良14カ村を治め、小川に城を設けていました。明治時代に自分が持つ土地を国に返すことになったときに、国ではなく全てを領民に分け与えたことから、村民から感謝され、大変慕われています。



写真：武夫公



写真：則忠公銅像

他にもこんな人たちが・・・

- ・ 古月禅師 (江戸時代の高僧)
- ・ 木喰上人 (仏像彫師)
- ・ 金丸惣八 (金丸堰)
- ・ 松本覚兵衛 (伊倉用水路)
- ・ 黒木正英 (砂防村長)

⑧ 流域の民芸・芸能・まつり りゅういきの民げい・げいのう・まつり

(1) 流域の民芸 りゅういき 民げい

流域の民芸品は、佐土原藩時代の文化が伝わる平野部に集中しています。

しゃんしゃん馬 うま



佐土原や妻地方において、鵜戸神宮へお参りをする新婚夫婦の花嫁を馬にのせ、花婿が手綱をひいた姿の情緒豊かな玩具です。

佐土原人形 さどわらにんぎょう



渡来してきた朝鮮の人々が戯れに人形を作ったのが始まりとされます。明治初期から大正時代には人形作りが盛んでしたが、14軒あった窯元も戦後は殆どが絶え、現在は佐土原町内に2軒ある製作所で残された型を基に復興されています。

佐土原の羽子板 さどわら はごいた



全長20cmのやや幅の広い板です。佐土原地方では、正月に女兒の祝儀に羽子板を贈る風習があり、昭和初期まで続いていましたが、次第になくなっていきました。

ぶんぐるま ぶんぐるま



ぶんぐるまとは竹製の「うなりごま」のことで、佐土原では春の市になると売られていたのが「春ごま」ともいいました。上下の蓋に塗った赤と、胴の黒が美しいコントラストとなり、風雅な竹ごまとなっています。

久峰うづら車 ひさみね うづらくるま



久峰観音の延命長寿、無病息災の縁起物で全国でもよく知られる郷土玩具です。タラの木で作られ、素朴な形の美しさと南国的な明るい配色と紋様が特色です。

(2) 流域の芸能

この流域は、県境の峠を越えて人吉へ近いことから、熊本との関わりが強く、文化の影響を多く受けています。伝承芸能のなかでは山間部の神楽、平野部の臼太鼓踊りと風流踊りなどが、代表的なものです。

米良神楽 (村所・銀鏡神楽)



かつての東米良・西米良の山の中に活き続ける「村所神楽」と「米良神楽 (銀鏡神楽)」はともに古い歴史と様式を持つ芸能です。「村所神楽」は南北朝の頃に武将菊池氏が、懐良親王の一子、良宗親王を奉じて米良に入山した際に西米良に移し広めたとされています。その後「米良神楽 (銀鏡神楽)」が、東米良に入ってきたと言伝えられています。

臼太鼓踊り



西都市とその周辺は多くの民俗芸能を伝承する地域です。伝統を誇る下水流地区の「臼太鼓踊り」は、跳躍と縦横の激しい動きを伴ったダイナミックな太鼓踊りです。西都市と隣接する佐土原町にも臼太鼓踊りが伝承されており、由来と形式については下水流地区のものと同一であり、奉納される時期から「十五夜踊り」とも呼ばれています。

いろは口説き

佐土原町堤地区をはじめとする各地区に「いろは口説き」の盆踊りが伝承されています。「佐土原盆踊り」はこの口説きを中心に、浴衣に編笠そして手に扇子という装束の踊り子が初盆の家を回って供養する江戸時代からの風習です。踊りには「たかとび」「やっこせ」「四つ竹」などいろいろな振りがあり、地区によって色合いが異なります。

民謡

一ツ瀬川に関係の深い民謡として、一ツ瀬川下りの民謡が伝承されています。米良から切り出された良質の木材は、流れに乗って一ツ瀬川を下っていきます。その作業のときに歌われていたのが、「木出し・木遣りの歌」や「エンサー」と呼ばれる木遣歌です。旋律は伊勢音頭のようにでぎやかな囃子がつきました。

♪ ドットコエーイ そこで ドットコセー
花は花だよ エー そこで ドットコセー ♪

(3) 流域のまつり

流域の祭りは、大きく「山のまつり」「平地のまつり」に分けることができます。「山のまつり」には、焼畑や狩猟の儀礼が取り入れられ、「平地のまつり」には稲作の儀礼が見られます。そこには、その土地に適合しようと工夫して生活してきた人々の歴史があり、産業そのものが祭りの伝統を支えてきました。生きるための暮らしの文化の一つが「伝統のまつり」となっています。

春のまつり

春おびしゃ
弓の口あけと春奉射
銀鏡の春まつり
びしゃもんでんさい
毘沙門天祭

厄除け・夏まつり

ダゴツヤとダゴまつり
愛宕神社の喧嘩だんじり
イブクロ

十五夜

都萬神社の更衣祭

鎮魂・供養のまつり

御武者まつり
山陵祭（西都古墳まつり）

予祝祈願・冬まつり

巖流神社例大祭
速川神社例大祭
米良山の願立てと願成就
東西米良の冬まつり

諏訪・稲荷のまつり

狭上稲荷冬まつり
児原稲荷例大祭

信仰のまつり

観音まつり（長谷観音）
地蔵まつり（石野田地蔵）

昔からあるおまつりって、たくさんあるんだね！



節分・仏教行事

吉祥寺の鬼子母神縁日

おまつり、だーいすき！



⑨ 流域の遊び

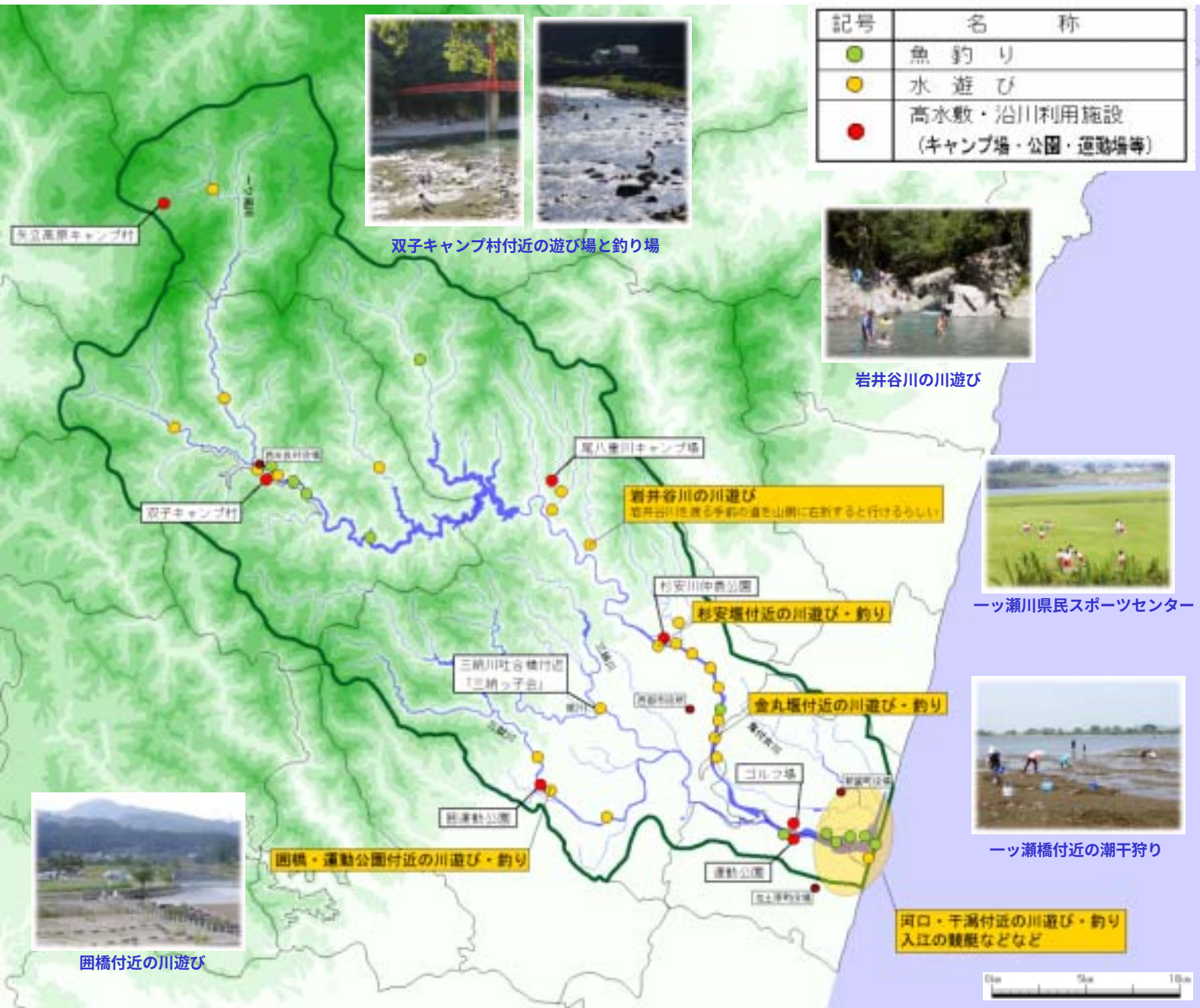
りゅういきのあそび

ひ と つ せ が わ み や ざ き げ ん な か か ず す く か せ ん じ き か わ ら か わ ひ り ー
 ー ツ 瀬川は、宮崎県の中でも数少ない河川敷（川原）のある川です。その広
 か わ ら り よ う す ぎ や す か わ な か じ ま こ う え ん さ い と し つ く
 い川原を利用して、杉安川仲島公園（西都市）などが作られています。また、
 さ ん ざ い か わ か こ い う ん ど う こ う え ん さ い と し い が い す ぎ や す い げ き か ね ま る げ き
 三財川では 囲 運動公園（西都市）があります。それ以外にも、杉安井堰や金丸堰
 ち か み ず あ そ こ ど も み の う が わ は き あ い ば し ふ き ん
 の近くは水遊びをする子供たちでにぎわいます。三納川の吐合橋付近では、
 ま い と し が つ み の う こ か い ひ ら ど お こ な
 毎年8月に「三納っ子会」が開かれ、マスのつかみ取りなどが行われます。
 じ ょ う り ゅ う か ず お お じ ょ う た の ひ と
 上 流 には、数多くのキャンプ場があり、キャンプを楽しむ人たちでにぎわ
 っています。

みな ふう ひとつせがわ あそ
皆さんは、どんな風に一ツ瀬川で遊んでいますか？

凡 例

記号	名 称
●	魚 釣 り
●	水 遊 び
●	高水敷・沿川利用施設 (キャンプ場・公園・運動場等)



ひとつせがわ むかし かわ なが にご なが ひろ せ そこ み ふか ふち
一ツ瀬川は昔、川の流^{なが}れは濁^{にご}りがなく、長く広い瀬や底^{そこ}の^み見えない深い淵^{ふか}が
たくさんありました。そこには多^{おほ}くの魚^{さかな}がすみ、魚釣^{さかなつ}りもあちこち^{おこな}で行^{おこな}われ
ていました。

こども きけん ばしょ のぞ かわ じゅう あそ
子供^{こども}たちは、危^{きけん}険^{けん}な場^{ばしょ}所^{しよ}を除^{のぞ}いて、川^{かわ}のあちこちで自由^{じゅう}に遊^{あそ}んでいました。
がっこう すいえい じゅぎょう かわ おこな
学校^{がっこう}の水泳^{すいえい}の授^{じゅぎょう}業^{ぎょう}も、川^{かわ}で行^{おこな}われていたそうです。

いま さかな ひとつせがわ むかし
今^{いま}でも魚^{さかな}がたくさんいる一ツ瀬川^{ひとつせがわ}ですが、昔^{むかし}はもっと、きれいで、いろん
な魚^{さかな}がいたんですね。



ひとつせがわ いま にご おお
一ツ瀬川^{ひとつせがわ}って、今^{いま}は濁^{にご}っていることが多^{おほ}い
けど、昔^{むかし}はもっときれいだっただね。
いまだに
なんで今^{いま}は濁^{にご}っているんだろう？



かわ およ たの
川^{かわ}で泳^{およ}げたなんて、楽^{たの}し
そうだなあ

そうだ！

むかし あそ いえ
昔^{むかし}はどんな遊^{あそ}びをしていたのか、家^{いえ}に
かえ
帰^{かえ}って、じいちゃんやとうちゃんに聞^きい
てみよう





三. 水との戦い

みずとのたたかい

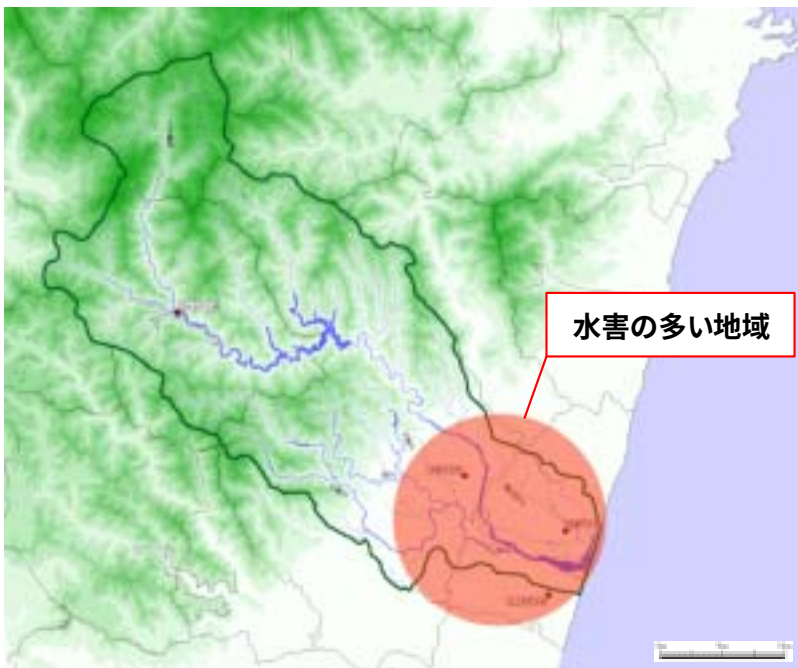


① 一ツ瀬川の水害の歴史 ひとつせがわのすいがいのれきし

ひとつせがわ りゅういき く ひとびと ゆた めぐ おお
一ツ瀬川は、流域に暮らす人々に豊かな恵みをもたらすいっぽうで、大きな
わざわ たいふう すいがい
災いももたらしました。それが、台風などによる水害です。
りゅういき く ひとびと れきし みず たたか れきし
流域に暮らす人々の歴史は、水との戦いの歴史でもあったのです。

(1) 水害の歴史 すいがい れきし

ひとつせがわ りゅういき おお たいふう とお みち たいふう はっせい
一ツ瀬川流域は、多くの台風の通り道となっています。そのため、台風が発生
がつぜんご おおく すいがい はっせい
する9月前後には、これまで多くの水害が発生してきました。
ひとつせがわ とく かわ なが ゆる すぎやすきょう かこう くかん すいがい
一ツ瀬川では、特に川の流れの緩やかな杉安峡から河口までの区間に、水害
ひがい しゅうちゅう
の被害が集中しています。



写真：台風の被害の様子



どうして水害が
おおいんだろう？

(2) 過去の水害 かこ すいがい

ひとつせがわ りゅういき せんぜん げんざい おお すいがい きろく のこ
一ツ瀬川流域には、戦前から現在まで、多くの水害の記録が残されています。
とく しょうわ ねん たいふう ごう みのうがわ りゅういき こ いえ みず つ
特に、昭和41年の台風13号では、三納川流域の400戸もの家が水に浸かり
ました。また、多くの木橋も流され、そのため116戸もの家が一時孤立して
ひがい
しまうほどの被害が出ました。

今までどんな水害があった
のか、調べてみよう！



② 一ツ瀬川の治水の変遷 ひとつせがわのちすいのへんせん

たび重なる水害から暮らしを守るため、一ツ瀬川流域の人々は、昔から知恵と工夫を積み重ねてきました。治水の変遷は、流域の人々の水を治めるための努力の歴史ということができます。

(1) 江戸時代の治水

江戸時代には、一ツ瀬川に浮かべたいかだや小舟で、農作物や木材を河口の福島港まで運んでいました。佐土原藩では、こうした舟が一ツ瀬川を通りやすいように、浅くなった川底の土砂を取り除いたり、船着場の護岸を整備したりしました。

江戸時代にも、ちゃんと治水が行われていたのね。



(2) 県内最初の河川改修事業

明治時代になると、一ツ瀬川でも、川の流れを安定させるための工事、河川改修事業が行われました。一ツ瀬川は、昭和7年（1932）から、宮崎県の中でも最も早く、河川改修事業が行われました。それから約半世紀後の昭和58年、長い年月をかけて、ようやく一ツ瀬川の河川改修事業が完了しました。

写真：工事の風景



ずいぶん多くの人が、工事にたずさわっているんだなあ～



(3) 戦前の治水工事の様子

一ツ瀬川流域には、戦前の工事の様子を伝える写真が残っています。こうした写真から、かつての川の様子や、治水工事の様子を知ることができます。

写真に見る 戦前の治水工事の様子

土屋光弘さんの写真アルバムより



写真：堤防の上に設置されたトロッコ線路

かつて、一ツ瀬川流域では、汽車にかわってトロッコを用いて、土砂を運搬していました。そのため、堤防づくりには多くの人や馬がかかりました。



写真：粗朶沈床作成風景



写真：水制工の組み立て風景

昔は人の力だけで工事をしていただね



(4) よみがえる伝統的水制工『牛杵工』

一ツ瀬川の瀬口、竹瀬、三財川の受関、岩崎では、伝統的水制工である「牛杵工」をよみがえらせました。



写真：一ツ瀬川の竹瀬（左岸）にある牛杵工

牛杵工は、木や石などの自然の素材を用いており、姿・形も造形的であるため、河川環境、河川景観になじんでいます。

また、自然素材を用いることにより、隙間の多い構造となるため、水辺に棲む多くの生物の生息・生育場を創出するなど、自然環境にも適合する工法として見直されています。

③ 一ツ瀬川の利水の変遷 ひとつせがわのりすいのへんせん

ひとつせがわりのういき　ひとびと　みず　おさ　ちすい　みず　りよう　りすい
一ツ瀬川流域の人々は、水を治める治水だけではなく、水を利用する利水にも
ちえ　くふう　つ　かさ
知恵と工夫を積み重ねてきました。

りゅういき　の　うち　うるお　すぎやすいせき　せき　つく
流域の農地を潤すために、杉安井堰をはじめとした堰やダムが造られました。
また、堰やダムが造られる以前には、水車や揚水ポンプが活躍していました。

ひと　つ　せ　すいりよくはつでん　けんせつ　りゅういき
さらに、一ツ瀬ダムをはじめとして、水力発電のためのダムも建設され、流域
ひとびと　でんりよく　きょうきゅう
の人々に電力を供給しています。



写真：一ツ瀬ダム しやしん　ひとつせ



むかし
ぼくたちは、昔から
いろいろなかたち
ひとつせがわ　りよう
で、一ツ瀬川を利用
してきたんだね。

く　ささ
わたしたちの暮らしを支
える一ツ瀬川を、これか
らもう大切にしていかなく
てはいけないわね！
たいせつ

